

3 蜜を回避して“と〜かんカフェ”賑わう

5/2(日)の“第67回と〜かんカフェ”は、オープン前のにわか雨で開催が心配されましたが、天候が持ち直し予定通り開催されました。しかしこのオープン前のにわか雨の影響で参加者は通常よりやや少なくなりました。

一年を過ぎても終息の気配がみえない“新型コロナ”のまん延で、ウイズコロナ(コロナと共生)はいつまで続くのでしょうか。政府はステイホーム(家で過ごす)を奨励していますが、若い人たちは街にあふれています。大阪地方では医療崩壊が現実味を帯びています。

一方、高齢者は家で過ごすことで、運動不足によるフレイル(不活発病)で、足腰が弱るだけでなく肥満も心配になります。また生活の不活発は認知症の罹患率を高めるともいわれています。

“と〜かんカフェ”の活動は、街の憩いの場として、またミニショップでの買い物、専門家による相談コーナー(リフォーム、不動産、家財整理)と、万々に備えた相談も充実しています。こうした新しい社会システムの構築は、他地域では見られない「住み続けられる地域社会」として高く評価されています。



(この幟が目印です)



(相談コーナーでは専門家が待機)



(1ポイント、100円も魅力です)



(手づくりクッキー・朝どり野菜の販売)



(入場者は検温・手の消毒から)



(女性に人気の小物販売)